被災地支援から見たコミュニケーションの重要性

本年1月1日、能登半島にて巨大な地震が発生しました。西区役所としても避難所運営支援や被災住民の健康支援を行うため継続的に職員を派遣し、被災地での活動を続けています。今回、区民の皆さんに被災地の実態を知っていただくため、派遣職員の現地での活動レポートをお届けします。

6月9日(日)には、地域振興会の主催で西区初となる区内全地域による合同防災訓練も実施されます。このレポート、そして被災地の声をご覧いただき、また8面の「身近にできる防災をチェック!」も確認いただいたうえ、ぜひとも合同訓練に参加いただければと思います。

～被災地活動レポート～

石川県輪島市(大屋地区)での災害支援活動

大型バスに乗り、市役所(淀屋橋)を出発したのが午前8時、輪島市の宿泊所に到着したのは午後4時、8時間の移動でした。道路が崩落していたり、倒壊した家屋で通れなかったりで、仮設道路や迂回路の通行となり、石川県志賀町あたりからはまともに進むことができませんでした。

避難所(小学校)では主に支援物資の整理や配給、食事の配膳をしていました。一番大変だったのが、被災者の中にコロナウイルスやノロウイルスに罹った方がいたので、医療スタッフから感染症対策の指示があり、防護服を着て作業したことです。部屋やトイレの清掃・消毒、汚物回収の作業をしましたが、水道が使えない不衛生な状況で、感染症がより蔓延しやすかったのだと思います。

発災当初はお正月用に買った食材を持ち寄って、分け合ったと聞きました。また、地域のつながりがあり、知っている人で固まって生活していました。体育館の中はついたてで仕切られていましたが、中が見える状態でした。避難者からの相談を受けて輪島市の災害対策本部へ要請し、カーテンを取り付けてプライバシーを確保しました。

避難所では必要なものが刻々と変化しており、その環境は想像以上に厳しかったです。そんな中、避難者同士の助け合い、コミュニケーションがあることで何とか避難生活が成り立っているのだと感じました。

家屋の倒壊と液状化で隆起したマンホール

ついたてにカーテンを取り付ける様子

避難されている方に聞いた現地の実情

- 発災してすぐのころは、欲しいものを輪島市に要請してから、避難所に届くまですごく時間がかかった。
- 何より水道が使えないのが一番厳しい。
- メディアは輪島朝市とビルの倒壊を多く取り上げているが、他の地域もこんなに酷い。そこをちゃんと伝えてもらいたい。
- 友達が違うところに避難していて、遊べなくて寂しい。(小学生)
- 仕事を始めたいけど家も職場もグチャグチャ。片付けからしないと仕事ができない。始めたとしてもお客さんが来るかどうか…。
- 食べられるだけありがたいけど、(避難所では加工食品が多いので)できれば生鮮食品が食べたい。
- 赤ちゃん用の物資(純水や離乳食など)がない。　など

避難所となった大屋小学校施設内

津波避難の3ポイント

6・7面防災マップをチェック!!

能登半島地震では津波の発生により、珠洲市や能登町で浸水被害が出ました。南海トラフ巨大地震ではさらに大規模な津波が発生すると想定されています。津波避難のポイントをチェックしましょう。

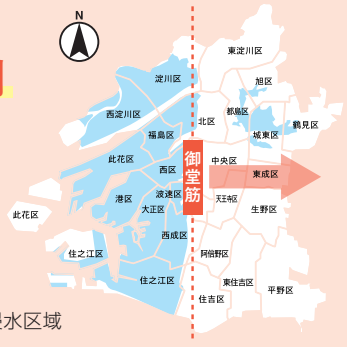
ツートライブ出演♪
西区防災動画をチェック！

❶ 西区にも津波が来る 周りの人にも声をかけて

1mを超える津波が来るまでに1時間50分あると想定されます。慌てず落ち着いて津波警報を確認しましょう。

❷ ビルへの避難は 3階以上

九条エリアでは3.5m、区役所でも1.5mの浸水想定。警報が出ている間は、地上に降りないで。

❸ 逃げるなら 御堂筋より東側

浸水が長時間続くことも考えて、浸水区域外に出るのがベスト。時間に余裕がないときは、迷わずビルの3階以上へ。